



アリはどうして土の中に巣を作るの

土の中は安全で、くらしやすい

アリは、体が小さく、敵と戦う武器もあまりもっていません。そのかわり、子どもを育てるのも、食べ物を集めてためておくのも、敵のこうげきに立ち向かっていくのも、いつも仲間と一しょです。1ぴきだけでは、生きていけません。仲間と一しょにくらす巣は、安全で、雨や風、寒さ、暑さも防げるものでないといけません。

土の中は、地上とちがって、1年中、あまり気温が変わりません。雨がふったり、寒い冬には、あなの入り口をどろでふさいでしまえば、巣の中はあたたかです。鳥や小動物など、アリのえさをにする敵も、土の中ならあまりおそってきません。土の中の巣は、こんなにいいことがたくさんあるのです。アリは、において、大切なことを伝えあっています。アリの行列も、先に歩いたアリの残したにおいを目印にしてできるのです。ですから、真っ暗な土の中も、アリは不自由しないのです。

土の中以外に巣を作るアリ

日本にいるヒラズオオアリはかれ枝、トゲアリはくさった木の幹に巣を作ったり、かれ葉を丸めて、巣にすることもあります。激しい雨がよく降る、熱帯のジャングルでくらすアリは、地面ではなく、かれ枝や、木の幹にくさってできたあなや、落ち葉の下などに巣を作ることが多いようです。巣を作らない、グンタイアリもいます。(監修・中山 周平)

